Q&A　資料「言葉の森」について

二（上）85ページ「ことばの森」あんない

二（上）86・87ページ「黄色いバケツ」

一（下）	どうぶつ村の おんがくかい なかよしの うた
二（上）	黄色いバケツ
二（下）	ことばのしらべ ことばとことばでタタタタタ
三（上）	聞き耳ずきん
三（下）	へんしん物語 世界の「こんにちは」と文字
四（上）	いろはにほへと
四（下）	言葉のおうえんだん 心でパチリ
五（上）	どうして泣くのかな
五（下）	歌う日本列島 ちえの言葉、言葉のちえ 月夜のみみずく
六（上）	今も昔も 狂言　柿山伏／柿山伏について

「言葉の森」資料一覧

Q　平成十七年度版から、教科書の各巻最後に、「言葉の森」が設けられています。これは、どんな理由から設けられ、どのような方針で編集されているのでしょうか？

A　平成十七年度からお使いいただいている教科書では、一下から六上までの各巻末に、資料「言葉の森」を新しく掲載しました。「言葉の森」は、その学年の学習内容を、さらに広げ、深め、進めるためのプラスアルファの学習材料です。

学校現場では、二学期制の導入・長期休暇の活用・読書タイムが導入されるなど、地域や学校による独自の教育課程の導入が目ざされています。また、児童一人一人の興味・関心や習熟度に応じた指導や少人数指導などが奨励されて、多種多様なカリキュラムが展開されようとしています。

そのような状況を考えたとき、従来までの教科書教材に加えて、プラスアルファの学習材料を提供する必要があると判断し、新たに設けたのが「言葉の森」なのです。

「言葉の森」では、子どもたちにさまざまな言葉の世界と出会ってもらうことを願っています。そのために、各学年とも一つずつ新鮮な読み物を掲載しました。また、言葉をめぐって書いたり調べたり作ったりする学習を複数提案しています。

さらに、三年以上の「言葉の森」には、「発展的な学習内容」を一つずつ位置づけました。これは、言語事項に関する一段階上の学年の内容を取り入れ、無理なく楽しく学べるように教材化したものです。

「言葉の森」は、学校や学級の実態に応じた多様な扱い方が可能です。単元や小教材の学習と関連させて、授業の中に組み込むことも可能です。また、国語の授業時間外でも、「朝の読書」の時間に扱ったり、夏休みや冬休みの自由課題とすることもできます。このような取り扱いは、次ページ以降の『「言葉の森」の使い方』でよりくわしくご紹介いたします。

子どもたちの国語への興味・関心がいっそう高まることを目ざして、「言葉の森」を有効に活用していただきたいと思います。

「教科書ここが知りたい」は、国語編集部に寄せられる疑問・質問にお答えするコーナーです。「こんなことを取り上げてほしい。」などのご意見を広報課までお寄せください。

FAX 03-3493-5483　E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

光村図書のホームページ「光村チャンネル」の「お問い合わせ」のコーナーもご利用いただけます。

http://www.mitsumura-tosho.co.jp